

伊予三島ロータリークラブ



2016-2017
WEEKLY



具定展望台より四国中央市を望む

人間に奉仕するロータリー

Rotary Serving Humanity

2016-17年度国際ロータリー会長

No. 2 2

平成 28.11.25

第 3014 回

事務局	四国中央市金生町下分865	四国中央商工会議所内
	http://www.iyomishima-rc.jp	TEL (0896) 58-3530
	E-mail: iyomis@iyomishima-rc.jp	FAX (0896) 58-6294
例会	金曜日 12:10~13:10	
■会長	井原 伸	■幹事
	今村定生	■広報委員長
		石川 勉

ロータリー情報委員会 「奉仕の理想とは？」



委員長 新田 敏 晴

奉仕の理想とはロータリーの目的の中にあるThe ideal of service の直訳語で、ロータリーでよく用いられる言葉であり、単純に訳しますと、奉仕の理想 となります。このフレーズの訳を奉仕の理想と訳したのが、皆さんもご存知の米山梅吉翁でありました。日本のロータリーの創始者である米山梅吉氏は “This Rotarian Age” 「ロータリーの理想と友愛」の翻訳にあたって、The Ideal of service を「奉仕の理想」と訳されたのです。Idealはその語源から考えても「理念」と訳す方が理解しやすいと思います。また、数多いロータリーの公式文書の中でも奉仕理念に触れているのは「決議 23-34」のみであります。

この奉仕の理念すなわち奉仕の理想には2つのドキュメントがあります。これらは1923年の決議 23-34の第1項にロータリーは基本的には一つの人生哲学であり・・・という項目に1つ目のドキュメントで、奉仕哲学を表すService Above Self の「超我の奉仕」と2つ目のドキュメントで、実践

倫理を表す He profits most who serves best . の「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というシェルドンの職業奉仕の理念があります。これらのドキュメントが皆さまもご存知のロータリーの2つのモットーとなっております。

このService above self はこの決議 23-34 でこの言葉が確立しておりますが、それまでは、Service , not self で有名なミネアポリスRCの2代目会長で果物 卸売業のベンジャミン・フランクリン・コリンズが提唱した言葉だと信じている人が多いようですが、すでにミネアポリスRCに定着していたService , not Self という言葉を、1911年のポートランド大会のエクスカーションとして開催されたコロンビア川をさかのぼる船旅の中で行われた即興演説の中で、たまたまコリンズが引用したに過ぎません。

ミネアポリスRC 25周年記念誌にはミネアポリスRCは、1905年に広告の自主規制と相互扶助を目的として設立されたミネアポリス・パブリシティ・クラブを母体にして創立されたことが記載されております。どうやら、このService , not self というフレーズはこのミネアポリス・パブリシティ・クラブから引き継がれたものだと思います。1911年11月に発行されたNational Rotarianの第1号にコリンズの演説原稿の全文が掲載されておりますが、その内容を精読しますと、今までロータリアンが独占していた会員同士の相互取引を、会員以外にも拡大しようという意味でService not self というフレーズが使われていて、私の解釈では自己滅却の奉仕とか、無私の奉仕などという意味は全文を読む限り、この解釈にはかなり無理があります。また、ある人はService , の単語のあとにコンマがあるということが深い意味を持つと述べる人がいましたが、それは精読する限り「木を見て森を見ず」だと思います。私の解釈では自分さえ良かったらいいという考えはよくないという意味で、Service , not self は「利己と利他の奉仕」と訳せばよく理解できます。

また、この1910年代にはコリンズのService , not self やService before selfなどの言葉が飛び交っており、1917年頃からService , not self に代わって、Service above self が頻繁に使われるようになり、1923年に開催されたセントルイス国際大会に提出された第34号議案が決議され、決議 23-34 となり、ロータリーの目的に基づくすべての実践活動に対する指針であると同時に、ロータリーの2つの奉仕理念をロータリー哲学として確定した重要なドキュメントとなっております。

もう1つの奉仕理念となるシェルドンの He profits most who serves best . はロータリーが生まれる前の1902年にシェルドンが創ったシェルドン・ビジネス・スクールの教科書として出版された、Successful Selling (商売に成功する方法)の第6巻のカリキュラムの一節で使われていたフレーズであり、それをロータリーが借用していたに過ぎないことが分かりました。このHe profits most who serves best . は職業奉仕という概念が生まれた1927年以降に職業奉仕のモットーに変化して定着したことになります。言うまでもなく、シェルドンはロータリーに奉仕の理念を提唱した人として、高く評価されております。

それでは、本題である奉仕の理想の The ideal of service は公式文書としてはどこに掲載されているかについて、触れてみたいと思います。これは皆さまのロータリークラブが何曜日の何時からどこで例会が開催されているかが載っている本で、RIが発行するオフィシャル・ダイレクトリーという本の最終ページに奉仕の理想の説明文が英文で次のように出ております。

Rotary clubs everywhere have one basic ideal —the “ideal of Service which is thoughtfulness of and helpfulness to others . (ロータリークラブは人に対する思いやりを持って、人のお役に立つことという奉仕の理想という基本理念を持っている。)と書かれております。ここに出てくるthoughtfulness (思いやりを持つ)とHelpfulness (お役に立つ)のこの2つの言葉がロータリーの真髄であると言っても過言ではありません。この奉仕の理想という奉仕の理念をしっかりと理解し、今後のロータリー活動を続けていきたいと考えております。最後に、「奉仕の理想」とは「人に対する思いやりを持って、人のお役に立つこと」です。

第3014回 例会 記録 平成28年11月25日

開会 井原 伸 会長

来訪ロータリアン紹介
(川之江) 佐々木敬史氏、

出席報告

出席会員 (34名中) 25名
出席率 78.13%
第3012回修正出席率 100%

会長の時間

○2015-16年度ロータリー財団寄付認証品の送付

- ① 100%ロータリー財団寄付クラブのバナー
- ② 「財団の友」クラブのバナー

○定例理事会報告

- ・下期プログラムについて 承認
- ・12月度プログラムについて 承認
- 12/2 年次総会・次年度理事選出
- 12/9 プログラム・出席委員会
(下期プログラム発表)
- 12/16(夜)クラブアセンブリー
(クリスマス家族例会)
(定例理事会)
- 12/23 休会(天皇誕生日)
- 12/30 休会

幹事報告

- ・2016-17年度IM参加登録のお願い
日時 平成29年2月18日(土)
13:30~登録受付、14:00~開会行事
- 会場 リーガロイヤルホテル新居浜
- テーマ 『奉仕の理想へ、継続を力に!』
- 登録料 参加会員1名につき8,000円
(シンポジウム・懇親会)
(シンポジウムのみの参加は2,000円)
- ・新居浜南RC~創立50周年記念式典のお礼状
- ・例会変更通知
(新居浜南)
日時 12月13日(火) 夜間例会(年末家族会)
(新居浜)
①日時 12月22日(木) 夜間例会
②日時 平成29年1月5日(木) 特別休会
- ・ハートフルコミュニケーション実行委員会~
norikoハートフルコンサートのお礼状

例会行事

ロータリー情報委員会
新田敏晴 委員長

ニコニコ紹介

篠原聡一 親睦委員長~
先日の家族旅行には、大勢参加
頂き有難うございました。天気
にも恵まれ良い旅行となりました。

秋山雅彦君~先日の上期家族旅行の日は次男
の松山大学受験日でもあり、私
はお一人様旅行でしたが、無事
合格通知を手にすることが出来
ました。我が家にとっては、長
男・次男のダブル大学生にて、
辛く厳しい氷河期の始まりです。

秋山雅彦君~先日20日の幹事杯ゴルフコンペ
in吉備カントリーにて、やっ
と優勝できました。
桂ゴルフ部長と白石会員との優
勝請負人タッグのお陰で自己ベ
スト。神ってる1日を過ごしま
した。走れる馬の証明もでき、
ホッとしています。有難うござ
いました。

篠永靖司君~先般の市議会議員選挙で、長男
の誠司が5期目の選出を頂きま
した。有難うございました。
今後のご指導を宜敷くお願いし
ます。

大西英彦君~10月25日から、長女奈津美と
孫2人をロンドンへ連れて行き
ました。その機会を利用して、
かねてから希望していたイタリ
アへ夫婦で行って参りました。
ナポリ2泊、ローマ2泊、フィ
レンツェ4泊、ミラノ3泊と長
期間の旅でしたが、数々の遺跡、
各地の料理を堪能しました。
イタリア語どころか英語も出来
ず珍道中でしたが無事帰って参
りました。

12月9日プログラム予定

プログラム・出席委員会
(下期プログラム発表)